日本海ブロック試験研究集録
水産庁　日本海区水産研究所
第 28 号，87 ～ 88，1993

神奈川県沿岸海域で漁獲されるいか類について（要旨）

久保島　康　子
（神奈川県水産試験場）

神奈川県沿岸海域で漁獲されるいか類は，量は少ないが種類は多く，比較的値段の高い種が漁獲される．また，いか類は近年特に需要が増加している遊魚の対象としても欠かすことができないものになりつつある．以上の点より，沿岸海域のいか類を整理し，その生態を明らかにすることは重要である．これからの研究の出発点として，定置網での漁獲状況を若干整理したので報告する．

神奈川県のいか類漁獲量，漁法別漁獲量，海域別漁獲量は1965～90年の神奈川農林水産統計年報の属人統計を用いた．各いか類の分布および来遊時期は，1989年の13の定置網の漁獲統計資料（漁種別月別漁獲量）を用いた．

本県における沿岸海域でのいか類の漁獲量は1967年（1,896トン），1968年（1,550トン）および1971年（945トン）を除くと，約300トン前後という低水準ながら比較的安定している．沿岸のいか類は主に定置網（54.5%）と釣り（36.0%）によって漁獲されている．

以下，各いか類の漁獲状況をまとめる．

スルメイカは，相模湾西部を中心に漁獲され，漁獲のピークは２～５月，10月～１月にある．本種は釣りでもその中心となる重要種であるが，釣りの主漁場は，三浦半島の南部から西部にかけた沖の海域および内房総の洲の崎沖である．

ヤリイカは，外套長20㎝以上が漁獲対象となっている．今まで15㎝以下の小さい個体の漁獲は確認していない．来遊時期は11～５月で，全沿岸海域に分布しているが，定置網での漁獲は相模湾内が中心である．釣りの漁場はスルメイカとほぼ同じである．

メトイカとは，ケンサキイカの地方名である．この名称は三浦海区で主に使用されている．メトイカは全沿岸海域で周年漁獲されているが，ピークは冬～初夏にかけてである．三浦海区では11月下旬より外套長５㎝前後のものが漁獲されだし，４・５月に小さいものと共に20㎝前後のものが漁獲される．

アオリイカは，湾央で少なく，相模湾入り口にあたる相模湾西部・三浦海区で多く漁獲される．相模湾西部では周年漁獲されているが，ピークはどの海区も比較的共通しており，11～１月と４～６月に見られる．これらのピークは産卵群が主体で，本県でも特に三浦海区では来遊の時期に合わせて，産卵床を設置している．

コウイカ類は，コウイカ・シリヤケイカが中心であるが，他にも何種類かのコウイカ類を含んでいる．11～７月に漁獲され，ピークは３～５月で産卵群である．どの海区でも同様な漁期およびピークを示す．

その他のいか類として，量的にも少なく，漁獲される海区も相模湾東部・西部に限られるものとして次の３種がある．ソデイカは，小型のものが中心に初秋に漁獲される．スジイカは，７・８月をピークに５～11月に漁獲される．ホタルイカは，1985年の２～４月に相模湾東部・西部を中心に多量に漁獲されたのを契機に，以後，量的には少ないが重要な漁獲対象種として扱われている．

実際，沿岸へのいか類の来遊をみるうえで，本報告で用いた定置網のデータは１年分であり，これを元に本県沿岸への各いか類の来遊を考察するにはデータが余りにも不足している．今後，何年かにわたる定置網および釣りの漁獲量データ等を統合し，更には生物的データを収集し，本県の沿岸海域とは，そこで漁獲されるいか類にとってどの様な場（産卵場，索餌場等）であるかを明らかにしていく必要がある．

※詳細は内容を検討後，投稿予定．